

関係部署へ
回覧下さい

包装技術研究例会

～段ボールの機能性包装の現状と
デジタル印刷及びシミュレーションを使った包装開発の効率化～

日時	2019年10月9日(水) 13:30～16:30
会場	愛知県産業労働センター(ウインクあいち) 11階1103会議室 名古屋市中村区名駅4-4-38
参加費	会員は無料 / 一般は5,500円(税込み)
その他	会場内 録音・撮影禁止です

プログラム

コーディネーター

笹徳印刷(株) 企画制作本部 PCCグループ マネージャー (包装管理士) 北原 圭介 氏
ホーユ(株) 生産・物流本部品質保証部品質保証3課 担当課長 (包装管理士) 櫛田 康宏 氏

13:30～14:15 「段ボールで出来る機能性包装の現状」

ダイナパック(株) 開発本部中部CSC設計グループ 課長 早川 貴司 氏

現在Eコマースなどで段ボール箱の需要が伸びており、それに牽引されて段ボール箱の生産量は2013年では134.6億㎡が、2018年には143.9億㎡と約7%増加し、2019年度も昨年を上回る予想です。この増加傾向の中で開封性に配慮した形状や廃棄しやすい形状、また包装用途以外で利用できる2次利用などユーザーに有益な機能性に富んだ段ボール箱が多くみられる様になりました。また、手作業の多い梱包作業において作業の簡易さ、工数削減等の改善が望まれており、包装箱を多く使用している流通業界においても包装箱に求める機能の向上が要望されています。本発表はそれらを鑑み、素材ベースではなく形状的に機能を付与した段ボール箱の現状と最新の情報を報告します。

14:15～15:15 「進化を続けるHPデジタル印刷の特性と応用例、市場動向」

(株)日本 HP PageWide Industrial-Packaging Japan Sales account manager 永嶋 ゆり 氏
(株)日本 HP デジタルプレス事業本部ソリューションアーキテクト 土田 泰弘 氏

デジタル印刷という技術革新が包装産業に急速な変革をもたらしている昨今、新しいビジネス機会が到来しています。今回は、技術の進化とともに急成長が続く軟包装分野と、今後の躍進が期待される段ボール分野にフォーカスし、デジタル印刷技術および市場動向の側面から最新情報をお話します。

【軟包装】軟包装向けデジタル印刷機 HP インディゴの製品特徴、開発中の新インキの解説、また印刷前後加工に対するソリューションに加え、実際にデジタル印刷されたパッケージの事例を紹介いたします。

【段ボール】段ボール用プレプリント/ポストプリントデジタル印刷機の製品・技術の解説と、海外の先進事例を紹介いたします。

15:15～15:30

<休憩>

15:30～16:30 「シミュレーションを使った包装容器開発」 ～最適な容器を設計するには?～

アルテアエンジニアリング(株) 執行役員技術本部長 阿部 大生 氏

近年、包装容器業界において開発期間の短縮を主な目的としてCAE(Computer Aided Engineering)が幅広く活用され、FEM(Finite Element Method)を用いたシミュレーションによる性能検証が開発プロセスに組み込まれてきています。また、構造最適化技術も様々な製品開発に応用されてきており、特に設計初期段階でトポロジー最適化を活用し、要求性能を考慮したデザインとすることで、開発期間の更なる効率化が見込まれます。今回は様々な業界のシミュレーション活用事例とあわせて、CAEとは?トポロジー最適化とは?といった基本的な考え方や概念を説明し、包装容器開発におけるシミュレーション活用について紹介いたします。